



指扇中だより



西区の花 アジサイ

= 自信と誇りに満ちた指中生 =

〒331-0078 さいたま市西区西大宮3-31-1 電話 048(624)6234 FAX048(624)2479

ホームページアドレス <http://sashiogi-j.saitama-city.ed.jp/>

令和元年度 さいたま市立指扇中学校修了式 式辞

おはようございます。

今日は、令和元年度最後の登校日となりました。新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため一年生と二年生が別々に分かれて修了式を行うことになりました。三学期のまとめの時期にこのような臨時休校となり、誠に残念で仕方ありません。

一年生の皆さんは、三学期に上野・浅草校外学習を経験出来てよかったです。校外学習での活動は、時間を守り、集団生活のルールも守り、素晴らしかったと西村先生から報告を受けています。この経験を活かして、四月から、中堅学年として、一年生と三年生のパイプ役として、指扇中をひとつにまとめて頂けることを期待しています。

限られた時間の中で、ひとつだけ話をさせてください。

新型コロナウイルス感染拡大の中、ある新聞を読んでいると『ウイルスより人間怖い』という見出しの記事を見つけました。

電車の中で、くしゃみを2回続けた初老の男性をジロリと見た若い女性は「チッ」と舌打ちをした。近くに立っていた男性は、くしゃみの男性にマスク越しの目を細め、怒気（どき）ある視線を投げつけた。

私たちは今までに経験したことのない、非日常の中にある。強い不安と隣り合わせの中で、人としてあるべき心根（しんこん）を持ち続けるのは、ストレスがたまる。時に弱い人たちを攻撃したくなり、自分が信じたい情報だけを信じたい。ストレスがたまる非日常が続いている時こそ、人として、思いやりの精神をもって、助け合い、協力することが大切なのです。

9年前、東日本大震災のときによく流れたCMで、さいたま市の詩人、宮澤章二さんの「行為の意味」という詩を学校だよりに載せました。ぜひ、読んでください。そして、終わりの見えない時の中で、「思いやり」の心を持ち続け、この非日常を乗り越えましょう。

夜は、必ず明けます。そして、明日は必ずやってきます。

令和2年 3月 26日

さいたま市立指扇中学校長 青木 洋

※ 引き続き、マスクの着用・手洗いとうがいの励行・検温・除菌等お願いします。

※ 保護者の皆さま及び地域の方々、本年度の教育活動に対し、ご支援・ご協力・ご理解のほどありがとうございました。来年度も引き続きお願い致します。

指扇地区目指す児童生徒像 「～夢をもち 社会のために進んで学ぶ 指扇の子ども～」

行為の意味

——あなたの〈ころ〉はどんな形ですか
と ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも〈ころ〉は見えない
けれど ほんとうに見えないのであろうか

確かに〈ころ〉はだれにも見えない
けれど〈ころづかい〉は見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから

同じように胸の中の〈思い〉は見えない
けれど〈思いやり〉はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから

あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為となるとき
〈ころ〉も〈思い〉も初めて美しく生きる
——それは 人が人として生きることだ



詩人 宮澤 章二